

介護体験を 聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

第193回 介護体験を聞く会
平成30年2月24日(土)に開催

議題

1. 脊椎疾患になってデイケア室でリハビリを行っている83歳の男性について

2. 家族相談会

出席者(職員)・・・院長、柳田CM、柏倉、飯田、杉山、佐和田、吉田、板井、漆原
出席者(家族)・・・柴田さん、長島さん、藤田さん、柳澤さん、野々目さん、森下さん、今野さん、柴山さん、中島さん

*検討の目的
動作・機能維持のための
デイケア利用中の方で、10年近くデイケアをご利用
になる中で自主的な訓練

実施で機能維持し続けている方についての検討です。

氏名：Sさん(男性)
生年月日：昭和九年十一月(八十三歳)

介護度：要介護3

利用状況：週2回デイケア利用

利用開始日：平成21年3月

出身：山形県

趣味：カメラ、新聞を読む、パズル

性格：穏やか、口下手(御本人)

主介護者：奥様

*既往歴

昭和四十八年右大腿骨複雑骨折(現場作業中落下)

平成15年位 左膝より下骨折(交通事故)

平成19年大腸ポリープ切除(1日入院)

平成29年11月偽痛風

会報第194

平成30年3月16日発行

発行所・・・(有)明寿会

住所・・・川崎区中島1-13-3

電話044-2333-0061

*今月は3月31日(土)です。

にて入院(9日間入院)

*現在の内服薬

メチコバル錠500μg

(末梢神経の働きを助けて

手足のしびれ、痛み、麻痺などの症状を改善する)

フオリアミン錠(葉酸とい

う赤血球の生成に必要な

ビタミンです。貧血の治

療に用います)

アジルバ錠20mg(血圧を

下げるお薬です)

プロマック錠(胃潰瘍、

胃炎のお薬です)

当帰建中湯(T123)(身

体を暖める、血行促進の

お薬です)

*現在のADL(日常生活動作)

・歩行

一点杖と四点杖を使用し

歩行しています。移乗動

作やつかまり立ちなどは

杖や手すりを使用すること

でバランスを取って行



皆でおやつ作り

われています。

・食事
自立摂取されています。

・更衣
着脱動作など自立されています。

・排泄
自立されています。

・入浴
背中などの手の届かない

場所を除き自立されています。

*生い立ち

昭和9年 山形県にて出生

昭和37年 山形から川

崎へ 結婚される

大工としてお仕事をされ、

東京オリンピック時の高

速道路建設にも携わる

昭和38年 長男出生
昭和61年 現在の住居へ転居する

*デイケアでの様子
長年利用されていますが、一貫して自らの身体作りを止めることなく実施していらつしやいます。

*自宅での様子

午前中はテレビや新聞を読むことが多く、午後には毎日のように奥様と公園まで行き散歩をされています。

昨年十一月末に自宅にて右肘激痛にて救急搬送され、入院となる。検査の結果、偽痛風疑いと診断され、鎮痛剤にて疼痛軽減などの処置を行い、右肘痛軽減された為十二月初旬に退院される事がありました。その後デイケア利用を再開された際には多少歩行や移乗動作に不安定さがあったものの、徐々に入院前の状態に戻られ、現在に至ります。

*家族からの希望
現在の家で今まで通り生活を続けたい



男性陣も四苦八苦

*今後の方針

ご利用になられてからリハビリ職より指導のあった訓練方法等を自ら習得し、自主的に行われていく事により、現在のSさんの状態が維持されていると思えます。今後とも自らの体調と向き合い、訓練されていらしやるご本人、そして共に訓練をされている御家族さまにご協力できる事はさせて頂きつつ、継続してご利用いただければと思っております。

*検討会より

柴田さん：ある日両足がしびれて動けなかった。救急車で病院へいった。

いろいろ検査して多発性神経炎と診断された。前はつねつても分からなかったが、今は少し感覚があるようだ。

柳田ケアマネ：デイケアでの訓練には限りがあるが家ではどうですか。

柏倉：家では体操や運動をしている。デイケアで習ったことを家でもやっている。奥様もマッサージをしている。他にも近所の公園に行って歩いている。

柴田さん：本人がやりたいたいと言つて頑張っている。柏倉：本人はデイケアに来る目的をリハビリと決めている。リハビリなど教わったことをしっかりと自分の身につけている。

柴田さん：本人は1年ぐらいい外に出るのが嫌だったよ。嫌だったみたい。院長：今はだいたいよくないりましたよ。最近は何も参加してませんよ。

柳田ケアマネ：家ではなにかお手伝いしていますか、着替えとか。

柴田さん：家では服を着たり自分でやっている。

手伝うのは顔を洗うときくらい。一人で立てないので。

柳田ケアマネ：デイケアで習ったことを継続しているのは偉い。毎日継続できている人はすごく向上しますね。

院長：本人は挑戦しようという気持ちが強いですよ。

柳田ケアマネ：森下さんのところはどうですか。

森下：何を言っても聞かなくなってしまうことがあって、普段どおりに接しているつもりだったが、あれをやらなきゃこれをやらなきゃと考えて色々言ってしまった。転んだら大変という思いが強くて、着替えもこつちでやってしまった。

佐和田：手伝ったほうが時間的にも早いですが、本人ができることが必ずあるので本人のペースに合わせて介助することも大切。

院長：家族も研究をしていかなければいけない時代になっていく。良い知恵があったらそれをこうい

う場で交流し、教えあつてもらいたいし、他の家族にも伝えていきたい。

おやつ作り 調理による回想法

2月の祝日デイサービスではおやつ作りを行いました。

バレンタインデーも近いこともあり、「チョコレート」と、昔から馴染みのある果物「バナナ」を使ったおやつです。

潰したバナナと小さく切ったチョコレートを餃子の皮に包み、ホットプレートで焼くというものです。バナナを見れば「昔はたき売りしてたね」と

「今は高級な果物だね」と等々のお話が飛び出します。「バレンタイン、ついでだからあったのかしら」という話では、「働いている時には、男性社員にあげたよ」とか「ここ20年位かしらね」

「毎年奥さんからもらうよ」と楽しい話が弾む中、あつという間にボウルの中のバナナは潰され

ペースト状になっていました。最初、すりこ木で潰していたのですが、女性利用者の方々の意見で『手で潰した方が早い!』という事、さすが長年の経験ですね。

チョコレートも小さく切れました。さあ、ここからが本日一番の難関!

餃子の皮の周りに水をつけ、バナナとチョコレートを包みます。

「バナナなんて包んだことないからな」と戸惑いの声も聞こえてきました。

が：餃子の皮を見るなり、皆様きれいな餃子の形に包んでいます。「餃子と一緒にね」。料理をした事のない男性の利用者さんも、近くの女性陣に聞いたり、真似してみたりと頑張っています。

餃子にまつわる話もどこからともなく聞こえてきます。「うちは家族が多いから、たくさん作らなきゃならなかった」

「子供たちが好きでね、良く作ったよ」「最初はうまく包めなくてね」等々。



認知症と外出支援

グループホーム旭町では外出支援として、定期的に散歩やドライブに出かけています。

あつという間に100個近くのバナナ餃子が出来ました。昔、餃子作りをしていた頃を指先が覚えているんですね。まさに『昔取った杵柄!』

おやつ作り、料理をするという事は手先を使い、生活リハビリになります。また、献立や食材ひとつひとつにも、個々の思い出や歴史・生活が詰まっています。それらを語る時の皆様の生き生きとした笑顔、スタツフも素敵な思い出や歴史に触れる事が出来、楽しい時間を過ごす事が出来ました。おやつ作りという“回想”の時間を。

柳田デイサービス 吉田

先日東扇島までドライブに行ってきました。車内ではみんなで歌ったり、犬棒カルタを答えてもらったりと楽しく賑やかでした。東扇島ではみんなで砂浜を歩き、海や大型船を見ながらまた一曲歌い、帰りは川崎大師の方を回り、ホームに戻ってきました。とても楽しいドライブだったと思います。さて、この外出するという高年齢の方に色々良い効果があります。晴れた日に散歩に出かけることで気分が晴れやかになるという方もいらっしゃると思います。これは高齢者の方も同じで、いつもとは違う景色や季節の草花を見ることで良い気分転換になります。また、外を歩くことは適度な運動にもなり足腰の筋力低下を防いだり、便秘気味の方にも運動は効果的です。日光に当たることで

骨粗鬆症の予防に効果があるとも言われています。さらに、運動をすることで食欲も増し、しっかりと栄養を摂ることができ、体も元気になり、また外出ができるという好循環が生まれます。外出することは認知症の方にも良い効果があります。外を散歩して草花を見たり近所の人と挨拶をしたりするだけで、いつもとは違う景色や音、匂いなどを感知することができ、これは視覚、聴覚、嗅覚を刺激するもので、外出することで脳に多くの刺激を受けることができ、脳の活性化につながります。そもそもウォーキングなどの有酸素運動自体が認知症の予防に効果があるという研究結果もあります。家族が認知症になってしまふと、人に知られたいとか周りに迷惑じゃないとか心配して、できただけ家から出さないようにしてしまうことがよくあります。しかし、これは身体機能を低下させ、認知症を悪化させることにつながり、より介

護するのが大変になっていきます。認知症の方が外出するためには家族や周りの方のサポートが必要ですが、大変な苦勞もあるかもしれません。ですが、その苦勞に見合うだけの効果があると思いませんか。ちよつとしたお散歩でも良いので、ぜひ一緒に外出してみたいかがグループホーム旭町

漆原

最終土曜日のカレー作り

2月24日にご利用された利用者様8名の方々とカレー作りを行いました。カレーと言っても各家庭で具材は色々で「食べたことのないカレーをつくろう。」と冷凍のミックスベジタブルを使用してみました。昔に魚屋をされていたSさんは率先して包丁を持ちジャガイモ・玉葱・豚肉を「こつやつて切るんだよ。」と私たちスタツフに教えて下さいます。包丁なんて危ないのでは?と思われる方

も多いのではないのでしょうか。ですが長期間料理をしていなくても、包丁の使い方を自然と思いだし危なげなく使用する方が多いのです。卵のゆでずと伝えると「お酢を入れるといいよ。」「ころころ転がして。」などたくさんの教えが飛び交います。以前は皆さん料理をされていたので馴染みのある作業を思い出す事にも繋がります。女性利用者の方々は「昔ずつとご飯の支度をしてきたからやりたくない。」なんて言葉も出ましたが、卵の殻剥きをお願いすると「上手く剥けないわね。」なんてお喋りをしながらきれいに剥いて下さいました。切る、剥くといった作業が難しい方には混ぜる作業をして頂き全員が参加することで「役割」を再認識し出来るといった意欲に繋がっていくことが大切だと感じました。一つの物を皆で作る上げて頂いたカレーは「皆で食べると美味しいね。」口を揃えて皆さんが仰つて下さり、とても良い笑

顔で溢れました。

柳田ダイケア 工藤

1万名署名運動の経過と教訓

(1991年3月14日朝日川崎版)

柳田診療所開業10年目の移転斗争に勝利したあと、平成元年(昭和64・1989年)1月28日下関の武久病院グループ

の創始者をお呼びして「明るい老人医療を推進する市民の集い」を労働会館で開き、特別養護老人ホームをつくれと市に訴えた。それまで川崎区には特別養護老人ホーム(特養Ⅱ現在の「介護老人福祉施設」)が少なく、旭町・中島の高齢者を介護して婦人たちが苦しんでいた。このころは全国で多くの高齢者が「敬老

の日」に抗議の自殺をしていた。この当時川崎球場のメーデーにあわせて抗議の宣伝活動に参加していた90歳の辻さんは、私たちに「このようなことは、20年・30年も続けな」といけな」と叱咤激励された。短期間に一万名の署名が集まったが、金がないと川崎市議会は廃案にした(朝日川崎版参考、診



療所、デイサービス、三々五々館に掲示)。大企業にはいつも何十億もの金はだしていた。そこで私たちは自分たちで出来るところから始めたのである。

グループホームの仕事内容を点検する。(2018.3.14)

(2018.3.14)

集中と弛緩のケア(緊張と休憩のケア)・・・グループホーム利用者の日常生活リズムを考える。その上で専門職の時間配分を考える。利用者あつての専門職。薬剤の使用について(使い方)考えてみた。

降圧剤が中枢の弛緩を効果するつまり、効果が激しいと意識を失う。その場合、医者は減薬させる。ダイケアなどで集団ケアの最中に意識がもうろうとなつて集中出来ない人がある。これではいくら血圧が標準であつても、通所リハビリにはふさわしくない。また、認知症薬はどちらかというと覚醒を促す働

きがある。認知症薬が目撃的なし緊張を生じて他者が指摘するとするほど混乱や緊張につながる場合がある。つまり認知症薬が緊張強い事がある。普段からおとなしい人は良いが、緊張タイプ、興奮タイプにはいつそうの興奮を強いることになりかねないのである。薬は使いたいのである。話は違ふが、グループホームで利用者と職員の間で弛緩がずれてしまつて居ることがある。優先順位は当然利用者、これは指摘するとわかるという、しかし専門職として自覚する必要がある。

今、山茱萸が開花中

